

3

すべての人に
健康と福祉を

12

つくる責任
つかう責任

15

豊かさも
守ろう

17

パートナーシップで
目標を達成しよう

自生遺伝子組み換えナタネ汚染調査報告

調査の必要がない世の中をめざして取り組みを続けていきましょう



グリーンコープは、安全性が確立されていない遺伝子組み換え（以下、GM）作物が広がっていくことに危機感を持ち、GM作物・食品に反対する運動を続けています。その運動の一つが自生GMナタネ汚染調査活動です。6月23日に開催したグリーンコープの調査報告会では、5つの会員生協がGMナタネの自生の状況や取り組みのようすを報告しました。また、GMナタネの汚染の実態、GMやゲノム編集に関する世界の状況について学習しました。

7月12日には、全国の仲間が集うGMナタネ自生調査の報告会も開催されました。

調査を行った会員生協からの報告

ふくおか GMナタネの荷揚げがないはずのふ頭で今年も自生GMナタネを発見

GMナタネの荷揚げ港である箱崎ふ頭と、荷揚げはないとされる須崎ふ頭で毎年陽性が確認されています。今回は箱崎ふ頭は、天候不良により調査ができませんでした。

企業の清掃と管理により、自生ナタネは減少傾向にありますが、今年も陽性反応が出ました。この港からは、たくさんトラックが出ていくので汚染の拡大が心配です。



須崎ふ頭付近の製粉工場前の電柱脇や道路脇など4カ所のうち、3カ所のナタネから陽性反応が出た。

くまもと 地域組合員にも呼びかけ、調査を行いました

以前GMナタネを発見した八代市で、バスタ耐性のナタネが見つかりました。

地域の問題として共に考えたいと、広報紙で地域組合員に調査活動への参加を呼びかけ、個人や団体からの参加がありました。また、組合員が行う調査に今年も議員や自治体の職員の参加がありました。



3月に開催したまつりて、調査の意義やGM作物が私たちにどのような影響を及ぼすのかを話す組合員。

おokayama 港周辺で自生GMナタネを採取しました

ナタネの荷揚げ港（宇野港、水島港）と、岡山市東区にある飼料工場へ向かう道路沿いを調査しました。宇野港近くの製油会社の排水管脇で採取した小さなナタネがバスタ耐性で陽性でした。

水島港の製油工場付近で採取したナタネは、ラウンドアップ耐性で陽性でした。東区の高速道路インター周辺では、ナタネは確認できませんでした。



排水管脇に自生していた小さなGMナタネ。

ひょうご 除草が進み、自生GMナタネは減少しています

多くのGMナタネが荷揚げされる神戸港周辺や、灘区、東灘区、人工島、尼崎周辺の道路などを調査しました。

製油・製粉工場の敷地内には雑草が生い茂っている一方で、周辺道路や歩道脇には雑草は見当たらず、街路樹の根元はコンクリートで固められているなど、徹底して対策されているように感じました。



製油工場周辺は、きれいに整備されていたが、近くの道路では、バスタの疑陽性のカラシナを発見した。

自生GMナタネ汚染調査活動とは

GMナタネとは、遺伝子組み換えによって、除草剤を散布しても枯れない耐性を持つナタネのことです。日本では食用油の原料としてセイヨウナタネ（キャノーラ）の種子を輸入しており、そのほとんどがGMナタネです。荷揚げ港から製油工場への輸送の際に、GMナタネがこぼれ落ちて自生していることや、他のアブラナ科の野菜との交雑が懸念されます。

グリーンコープでは、2005年春から自生GMナタネのフィールド調査を実施。2009年からは抜き取りの活動も行い、多くの組合員が参加する「市民による監視活動」を続けています。

調査した生協名	調査箇所数	1次検査で反応が出た検体		
		ラウンドアップ	バスタ	判断不可
おおさか	14	0	0	0
ひょうご	5	0	1（疑陽性）	0
とっとり	5	0	0	0
（島根）	5	0	0	0
おokayama	4	1（陽性）	1（疑陽性）	0
ひろしま	5	0	0	0
やまぐち	17	1（陽性）、1（疑陽性）	0	0
ふくおか	50	1（陽性）	5（陽性）	0
さが	5	0	0	0
（長崎）	5	0	0	0
くまもと	78	0	1（陽性）	0
あおいた	18	0	0	0
かごしま	8	0	0	0
みやぎ	8	0	0	0
合計	227	4	9	0

2025年度
グリーンコープ自生GMナタネ汚染調査結果

講演 遺伝子組み換え・ゲノム編集食品の危険性



講師 天笠啓祐さん
遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン 共同代表
市民バイオテクノロジー情報室 代表

草剤に耐性のある雑草が増えたこと、新たにジェットが起きたことも報告されている。遺伝子の中でも働いているのはわずか2〜3%と言われており、ゲノム編集によって破壊された遺伝子は、遺伝子として働いていない箇所であるため問題ないというのが開発者側の見解である。しかし、遺伝子に影響があることは確実だ。

GM食品を世界一食べている日本人
GM作物は、アメリカで栽培が始まって30年が経過した。しかし、実際に流通しているのは4作物トウモロコシ・大豆・ナタネ・綿実から増え、おokayama、開発は完全な失敗だと言える。しかし、日本は食料を輸入に頼っているため、自国ではGM作物を栽培していないにもかかわらず、日本人が世界で一番GM食品を食べている。

キャノーラ油もその一つで、GMナタネを原料に日本で大量に製造され、市場に出回っている。

人体に影響を及ぼすGM食品
GMナタネの9割近くが除草剤ラウンドアップ等への耐性を持っている。そして、除草剤耐性のGM作物には大量の除草剤が散布されているため、除草剤の主成分グリホサートが残留しやすく、その影響による健康被害が世界各地から報告されている。

グリホサートは発がん性物質であるとWHO（世界保健機関）が認めており、カリフォルニア州でも発がん性物質に認定された。健康被害について除草剤メーカーを訴える裁判も相次いで起きている。また、生殖や出産、子どもの発達への影響なども明らかになってきている。その他にも、免疫システムや解毒を担う臓器への影響が指摘されている。

※1 世界で最も使用されている除草剤の主成分。がんを発症する危険性から使用を規制している国もある。

ゲノム編集の問題点と新たな動き
現在問題になっているのが、ゲノム編集食品だ。ゲノム編集は、生物の設計図であるDNA上の特定の場所を切断し、遺伝子を改変する技術である。日本では、高GABAトマトや肉厚のマダイ、成長が早いトラフグなどが開発され、販売されている。高GABAトマトは、ゲノム編集によって遺伝子を壊してうまみ成分であるグルタミン酸を高GABAに変えている。高GABAだから健康に良いという謳い文句で市場に出回っている。しかし、ゲノム編集には様々な問題がある。

ゲノム編集技術には、ターゲットのDNAを切断する際、狙った場所以外を誤って切断し、遺伝子を壊してしまうオフターゲットを起すリスクがある。一度切断されたDNAは、修復する際にDNAの集まりである染色体を破碎するという問題もある。

現在国内では、低アレルギーのゲノム編集鶏卵の開発が進められ、卵アレルギーがある子どもたちのための画期的な食品として注目を浴びている。この卵は、安全性が確認されている。

2023年にGM食品の表示制度が改正されたが、これは消費者が食品について知り、選ぶ権利を奪う改悪である。この表示制度では、GMではない」という表示が難しくなっている。

さらに、ゲノム編集食品は表示する「義務がない」とされている。しかも、有機認証の排除対象になっておらず、このままではゲノム編集食品が「有機食品」として認証される恐れもある。

欧米では消費者がGM食品を拒否するため、GM作物の開発は増えなかった。また日本では、ゲノム編集トマト苗の学校への無償配布を、市民団体が反対したことで広がらなかった。このように消費者が声を上げ、政府や自治体へ働きかけて、世論を動かすことが大切だ。全国の自治体では、ゲノム編集食品に表示を求める動きが広がっている。政府や自治体を動かすのは消費者一人ひとりの行動であり、継続して取り組むことが大切だ。

※4 改正前はGM混入5%以下で「GMではない」と表示できたが、改正後はGM混入0%と確認できる場合のみしか「GMではない」と表示できないことになった。GM混入0%は現実的にはほぼ不可能なので、「GMではない」と表示することはない。

品種改良・遺伝子組み換え・ゲノム編集の違い

従来の品種改良

美味いトマト × 掛け合わせ × 寒さに強いトマト = 寒さに強く美味いトマト

交配を繰り返し数多くの中から選抜

遺伝子組み換え

美味いトマト + 寒さに強いヒラメの遺伝子を導入 = 寒さに強く美味いトマト

ゲノム編集

美味いトマト - トマトの寒さに敏感な遺伝子を壊す = 寒さに強く美味いトマト

カタログGREEN19号・20号で呼びかけた
25年青森県りんご豪雪被害カンパ
へのご協力ありがとうございました

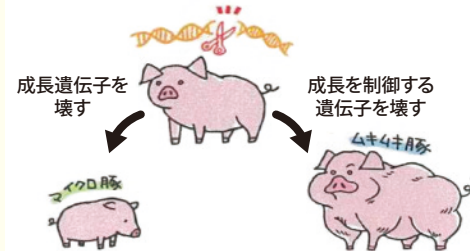
合計 4,526,600円

2024年末から年明けにかけての豪雪により、りんごの「枝折れ」「幹折れ」「倒木」などの被害が発生しました。カンパ金は被害を受けた青森県の産直産地「津軽みらい農協石川」、「津軽産直組合」へ届けます。



ほとんどのGM作物が、殺虫性、または除草剤耐性の性質を持つ（左が殺虫性トウモロコシで、右が除草剤耐性大豆）。

壊す遺伝子によって性質が変わる



ゲノム編集で目的とする遺伝子を壊すことによって、性質が改変された動物が生み出されている。例えば、筋肉の成長を抑制する遺伝子を壊すと、筋肉量が多い豚になり、成長ホルモンに関する遺伝子を壊すと、小さい豚になる。